

葬儀装花から学ぶ花の魅せ方

花き装飾コース

1. はじめに

内定を頂いたインターンシップ先で実際に仕事をしてみて、花の扱い方についての知識が足りないことや技術が身につけていないこと、コミュニケーション力が足りないことが課題としてあげられた。課題を克服することを目的とし、供花と花祭壇の制作に取り組むことにした。花祭壇は昨今流行りの小さなお葬式、コロナ渦で需要が増えている家族葬を取り上げ、前田先生にクライアントになって頂き、生前葬を想定し祭壇を制作することにした。打ち合わせでコミュニケーション力をつけ、デザインで企画力をつけ、制作で技術力、花の知識をつけることを目的とした。

2. 制作方法

テーマは「海から天に昇る龍」とし、キーワードは「中日ドラゴンズ」「龍」「海」とした。

以下の手順で制作を行った。

打ち合わせ→デザイン画制作→再度打ち合わせ
→市場へ花材調査→デザイン変更(図-1)→市場へ花材調達
→試作→最終打ち合わせ→制作(クライアントからの感想、担当教員からの指導→改善)を4回行った。

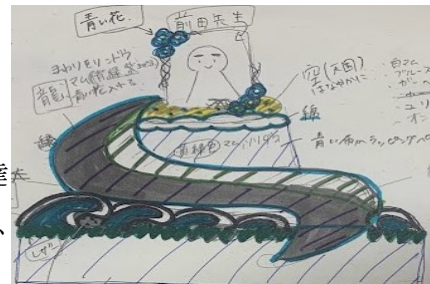


図-1 デザイン画

デザインは上段を天とし、中央に龍、下段が波と海とした。

3. まとめ

企画から制作まで行ってみて一番難しいと感じたことは、クライアントの要望にいかにか近付けた祭壇をつくれるかということだった。そのために、打ち合わせでコミュニケーションによってどれだけ多く、詳しく要望を引き出せるかが大事だと思った。今回経験をしたことによって受け答えの仕方やプレゼンのコツ、打ち合わせの流れを学ぶことができた。また打ち合わせをする中で、どの時期にどんな花があるのか把握できておらず、経験や知識不足、提案力のなさを痛感したため、これから覚えていくべきだと強く思った。

供花、花祭壇共に「後ろに下がって視線を落として全体を見ること」、「花が正面を向いていない」、この2点は何度も繰り返し指摘された。全体を見ることで、どの花が正面を向いていないのかにも気付くことが出来るので全体を見ることを習慣化していきたい。

制作を通して一番思ったことは、「本番は一度しかない」ということだ。今回は卒業制作なので、同じクライアントで祭壇を繰り返し制作したが、会社では限られた時間で一度しか制作できない。技術力がより試されるため、「本番は一度しかない」ということをもう一度再認識し、会社では緊張感を持って、またクライアントに喜んでいただける祭壇を制作していきたいと思う。

以下 C=クライアント、Y=担当教官、M=自分の感想と表記する。



【試作】 制作時間 約 12 時間

Y・M: 龍が目立っていない。

→ 龍の中の青い花の高さを低く挿し、緑のマムのラインを目立たせる。

Y: 海や天部分に広がりがなくオアシスが見えている。

→ オアシスの上面だけでなく側面にも花を挿す。



【制作①】 制作時間 約 7 時間

C・Y: 海の部分が左右非対称。

→ 対称にするならもっと対称になるように綺麗に挿す。対称に挿すのが難しかったのであえて非対称のデザインにする。

Y: 龍の尾と海が同じレザーファンで工夫がない。

→ 異なるグリーンにし、尾を強調させる。



【制作②】 制作時間 約 5 時間半

C・Y・M: 時間短縮はできたが、その分雑さ(ガーベラの花びらが欠けていたり、正面を向いていない花がある)がみられる。

→ 丁寧かつ早く制作し、最終確認でもっと隅々まで確認するようにする。



【制作③】 制作時間 約 7 時間 15 分

C・Y: 龍の凹凸やムラが気になる。

→ マムを上から挿していったら下部の本数が足りなかった。ムラを隠すために凹凸をもっと出す。

C: より龍の迫力を出すために龍の中央を高くして、立体感を出してみたい。



【制作④】 制作時間 約 6 時間 50 分

C: 龍を立体感が出て、全体的にもとても躍動感がでていて、海の波の音が聞こえてきそう。

Y: 全体的に中日ドラゴンズ感が消えた。

→ 野球ボールなどを置くだけでも表現できる。

M: 祭壇を見た人の意見からも、「海から天に昇る龍」のイメージがちゃんと伝わり嬉しかった。